

みなさん

私のことを

ご存知ですか？

ヒント



私はいつも
島根県庁の前に立って、

みなさんを
見守っています。

答えは

岸清一

きし

せい

いち

先生です！

岸清一なくして、
東京オリンピックピツクなし！



1912年オリンピックに初出場(ストックホルム大会)
「日本体育協会100年史」より

岸先生は、明治時代、当時の日本人としては数少ない国際弁護士として、国内外に多くの人脈をもっていました。近代オリンピックの創立者であるピエール・ド・クーベルタン男爵(仏)との出会いが日本オリンピック活動のきっかけといわれています。日本人をオリンピックの舞台に立たせるために自らの私財を投じることも厭わず、選手育成事業および活動に尽力されました。

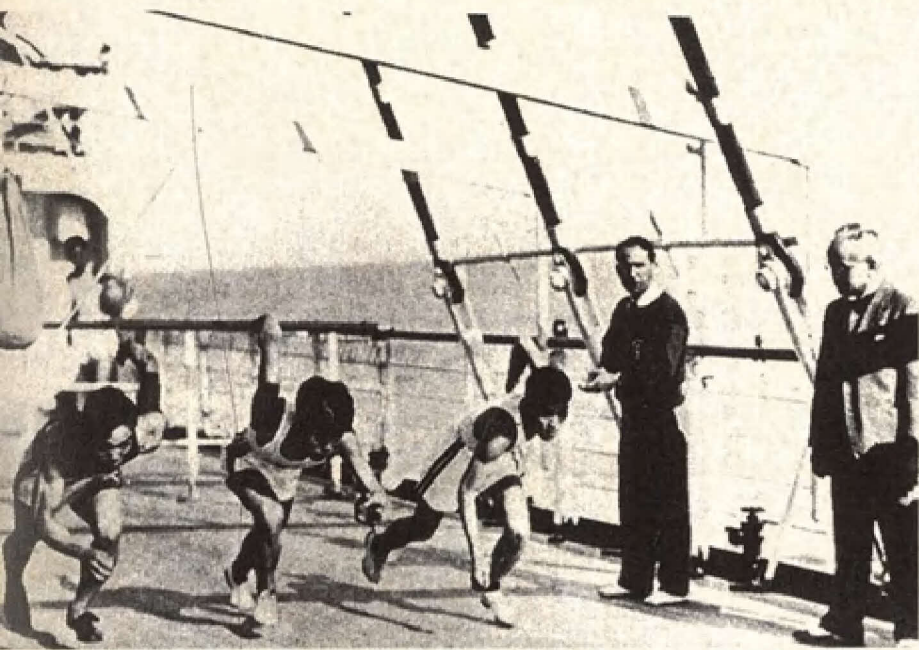
昭和7年に開催されたロサンゼルス大会

至誠努力

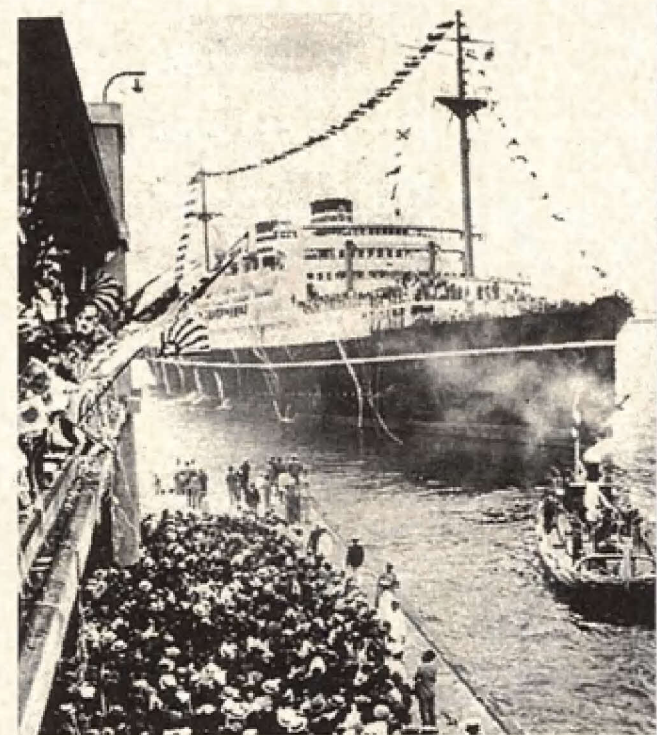
何事も誠意をもって
努力すれば、
どんな困難にも
打ち勝つことができ、
希望をもった
未来が開ける

へは、百九十二人の大選手団と共に参加し、龍田丸の船上で競技の練習をしたことは、あまりにも有名です。

そして、昭和15年の東京オリンピック開催決定にまでこぎ着けましたが、戦争により中止となり、「幻のオリンピック」と言われています。しかし、岸のこの活動が昭和39年の東京オリンピック開催へつながったことは疑いようがなく、「日本オリンピックの父」と言われています。



1932年ロサンゼルス大会に向かう船の中で練習する陸上の短距離陣
「近代オリンピック100年の歩み」より



1932年ロサンゼルス大会に向けて横浜港より出航
「日本体育協会100年史」より

松江市雑賀町の 下級武士の家に 生まれる

岸清一は、慶応三年に松江市雑賀町、津田街道の地行場で下級武士の家に生まれました。当時の雑賀町は、私塾活動が盛んで、多くの恩師の指導のもと、若槻礼次郎と並んで「鳳雛と臥龍」と称されていました。雑賀小学校、松江中学、東京大学へと進学し、大学時代はボート部で活躍。夏目漱石をはじめとした多くの知人を得るも官僚には進まず、弁護士への道を歩みました。

母校雑賀小学校には、今も岸清一の「至誠努力」の言葉が掲げられています。

故郷への 贈り物



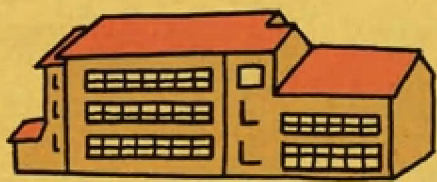
岸育英事業
(奨学金など)の創設



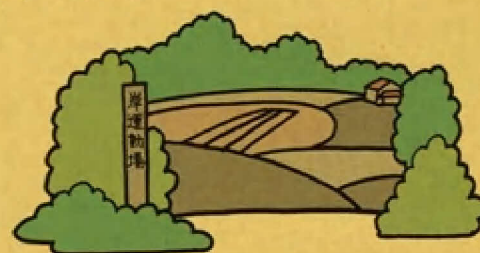
旧制松江高等学校
(現島根大学)の誘致



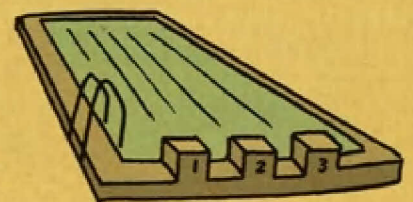
小泉八雲の遺品の寄贈
記念館の建設



雑賀小学校、松江中学(現松江北高)
などへの寄与



床几山の岸運動場



松江末次プールの寄付

岸先生は、故郷の発展に多大な功績を残されました。

岸清一 略歴 Seiichi kishi

1867 慶応 3年 雑賀町で誕生
 1879 明治12年 雑賀小学校卒
 1883 16年 松江中学校卒
 1889 22年 東京大学法学部卒
 法律事務所開業
 1897 30年 アメリカ・イギリス留学
 1904 37年 2回目のアメリカ留学
 1915 大正 4年 東京弁護士会会長
 1920 9年 日本漕艇協会初代会長
 1921 10年 大日本体育協会会長
 1924 13年 IOC委員
 パリオリンピック選手団団長
 1933 昭和 8年 逝去(享年67歳)
 1940 15年 東京オリンピック開催中止
 1941 16年 岸記念体育会館建設
 1958 33年 松江名誉市民
 1964 39年 岸清一銅像除幕式に
 IOC会長ブランテージ氏参加

オリンピック

1896 明治29年 1.アテネで近代オリンピックはじまる
 1900 33年 2.パリ
 1904 37年 3.セントルイス [初見学]
 1908 41年 4.ロンドン [視察]
 1912 大正1年 5.ストックホルム [日本初参加]
 1916 5年 6.ベルリン(中止/第1次世界大戦)
 1920 9年 7.アントワープ
 1924 13年 8.パリ [オリンピック選手団長・IOC委員就任]
 1928 昭和3年 9.アムステルダム
 1932 7年 10.ロサンゼルス [192名の大選手団参加]
 1936 11年 11.ベルリン
 [第12回オリンピック東京開催決定]
 1940 15年 12.東京(中止/第2次世界大戦)
 1964 39年 18.東京
 2020 東京オリンピック開催決定

◎ 墓碑 [久成寺] 松江市寺町156 (松江駅より徒歩7分)

◎ 銅像 島根県庁前、雑賀小学校内

 津田街道未来塾

塾長 小林幹久 / 幹事 若槻喜保 / 事務局 茶谷高史

〒690-0056 島根県松江市雑賀町92-1

電話 0852 (21) 6333